



菅生学園報

創刊号



目次

1. 理事長メッセージ
2. 菅生のあゆみ
3. 校長/園長メッセージ
活動報告
4. トピック
5. 今後の予定
6. 編集後記



7月はじめ 学びの城にある初等学校5年生の田んぼで、2年生が作った笹舟が力強く出航しました。

理事長メッセージ



=菅生学園報発刊にあたって=

菅生学園のスタートである多摩学院幼稚園が創設され来年で50周年を迎えます。この間、菅生学園は幼稚園から初等中等、高校、東海大学まで連なる一貫教育体制を整備してきました。

創設者島田久の建学の理念をベースに、それぞれの発達段階に応じた教育プログラムを実践し、自身で未来を切り開くことのできる多彩な人材教育を行って行くことが我々の使命です。

皆さんもご存知のとおり、大学入試改革の中では、単なる知識を問う問題よりも、思考力や発想力を問う問題を推奨しています。こうした力は一朝一夕に身につくものではなく、長い時間のトレーニングによって身につくものであり、一貫教育が評価されているのは、まさにこの点にあるのだと思います。

さて、菅生学園では、一貫教育を推進してきましたが、各部門間の情報共有が不足しているのを度々感じました。何をやるにしても、お互いの活動に対する理解がなければ前に進みません。お互いの活動を知ることにより、学園としての一体感が醸成され、最終的には菅生学園のブランド価値も上がってくるのだと思います。

今回、発刊する菅生学園報は、こうした狙いをもとに、学園教職員の情報交換のひとつのツールになればと思っています。関係各位のご協力を心からお願いいたします。

理事長 島田 幸成

菅生のあゆみ



1970年(昭和45年)に設立いたしました多摩学院幼稚園は、当初は「多摩児童学院」という名前で発足し、1983年には西多摩でいち早く学校法人立の幼稚園となりました。幼稚園設立の目的は、当時、羽村市には幼稚園が2園しか存在していなかったことと、3年保育を受け入れる園がなかったことなどの理由で、ぜひこの緑ヶ丘の地に幼稚園を設立してほしいという住民の方々の強い要望があったからです。地域の皆様、そして教育関係の方々のご協力、ご支援のもと設立の年には60数名の幼児の入園が許可され、毎年園児数は増加の傾向をたどってまいりました。

当時、園児募集の対象は主に4歳児2年保育でしたが、多摩学院幼稚園では3年保育2年保育1年保育の幼児も受け入れ、特に3年保育児は月齢に分けて保育にあっていたことも好評につながる要因だったと思います。

クラス数は3歳児(つくし組)、4歳児(れんげ組, すみれ組)、5歳児はたんぼぼ、あざみ、ゆりの3クラスに及んだこともありました。

2009年には多摩学院幼稚園が認定子ども園に成長し、規定どおりに設備を整えるため、いろいろな面での努力が必要でした。父母側の入園手続き等も大幅に変わり、多摩学院幼稚園の歩みも日々新たに成長し続けています。

一方、一貫教育を特徴とする菅生学園は実は幼稚園が母体となっており、大先輩となる菅生高等学校が1983年に設立、1999年には菅生高等学校中等部が開校、そして2007年4月には初等学校が開校されました。一貫校として東海大学にまでつながる菅生学園は関係者の皆さま方の日々のご支援、ご協力のおかげをもちまして、一步一步漸進の道を行っていると確認し、菅生学園の一貫教育のあり方(教育内容の研究を深める)を日々検討し、学園の子どもたちがいい方向に向かって成長していくように、さらに将来社会に役立つ人材育成に努めて、いくように努力いたします。特に菅生の教育に関わる皆さま、菅生の役職の皆さま方、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

副理事長 島田洋子

多摩学院幼稚園

園長メッセージ



仲野 三千代園長

輝かしい未来のために ～全ての園児が目輝かせて楽しい園生活を楽しめるように～
菅生学園広報誌の発刊おめでとうございます。学園教職員の皆様と共有できる事を嬉しく思い感謝いたします。

認定こども園多摩学院幼稚園は、幼稚園（保育園）から高等学校までそろった菅生学園のスタートラインとして「遊び・創り・学ぶ」一貫教育の充実・発展を目指しております。

- 遊び：様々な遊びで、生きる力の基礎を育てる。
- 創り：考えたり、ためしたり、工夫したりする遊びから思考力を育てる。
- 学ぶ：遊びを通して、学ぶ楽しさを味わわせる。

〈特色ある教育〉

- 音楽（リトミック）：講師が指導、音・リズムを楽しみ、表現力・創造力を育みます。
- 算数教室：担任が指導、考える力、集中力を育みます。
- 英語：初等英語科小峰教諭・ウィリアム講師指導、国際性豊かにコミュニケーション能力を育みます。
- 体育：宝川講師指導、心身ともに健やかな成長を育みます。
- サッカー：相川コーチ指導、協調性を養い、瞬時の判断力、また豊かにコミュニケーション能力を育みます。

遊びを通して楽しみながら興味・関心を持ち、豊かな基礎・土台形成、無限の可能性を導き出し、バランスの取れた能力を身につける。幼児教育において、深い学びの充実が求められます。子ども達の成長は、保育教諭の成長でもあり、心ある情熱と意識が重要です。

菅生学園の一員として誇りを持ち品格と質の高い魅力的な保育教諭となり、菅生学園の一貫した教育を念頭におき、また、アイデンティティのある真の幼児教育を目指し、邁進していきます。

活動報告

<4月>

- ・入園式
- ・身体測定
- ・対面式
- ・春の親子遠足
- ・こいのぼりマラソン
- ・春の多摩学院フェスティバル

<5月>

- ・歯科健診
- ・避難訓練引き渡し

・初等との交流会（年長組）

・開園記念日

<6月>

- ・算数・英語見学会及び講演会
- ・衣替え
- ・内科健診
- ・プール始まり
- ・リトミック参観日
- ・懇談会

<7月>

- ・七夕なかよし会（お遊戯会）
- ・年長組あかしあの里（介護老人保健施設）慰問
- ・夏祭り
- ・1学期終業式
- ・年長組お泊まり会（御岳山）

菅生学園初等学校

校長メッセージ



下平 孝富校長

このたび、学園全体で各校種の情報をより深く共有するために広報紙の発刊が決まりました。発刊までにおめでとうございます。

「灯台下暗し」ということわざにあるように、案外身近なところにあるものについては、あたり前との感覚が強すぎてかえって関心を示すことが少なくなるとはよく言われます。私は4月に着任して、自分の周囲を見ることに精一杯であったこともありますが、私の耳目で得た高等学校や幼稚園の情報はとても限られていたもののみだったと思います。私自身は、中等教育と初等教育を両方経験させていただきまので、中等教育と初等教育が似て非なるものという認識はありますが、他校種勤務のみならず、おかれましては初等学校の教育内容については未知のものと思われま。私ごとながら、10年前に前任校のさとう学園小学校に着任した頃の自分を振り返ると、毎日が驚きの連続でした。自分もかつては小学生だったことはすっかり忘れてしまい、授業や行事の中での児童の反応は、予想外かつ新鮮でした。

この広報紙は、初等学校の教育や児童の様子という未知の世界を他校種の教職員のみならず、理解していただく良い機会であると思っております。ご多忙の中ですが、ご一読をお願いいたします。児童が行う行事は、上級校から見れば「遊び」にしか見えない部分も多々あるとは思いますが、しかし、中学・高等学校の中等教育の6年間につながる大切な部分です。初等学校の時代は学力や体力のみならず、人格を含め内面も成長させる教育が必要な時期でもあります。教室での授業は当然として、行事をはじめとした諸活動を通じて、友人との軋轢を乗り越えて完成を目指す経験も大切な学びの一部分です。そのようなスタンスで初等学校の教員たちは日々子どもたちと関わっています。そんな点も理解していただける機会になれば幸いです。

活動報告

4/13

1年生を迎える会

1年生親子シイタケ植菌体験

4/15

働く消防車写生大会（消防総監賞ほか受賞）

4/20

学校個別相談会 開催（イオンモール日の出）

4/26

全校遠足（立川：昭和記念公園）

5/9

2年生親子タケノコ掘り体験

5/11

あきる野子どもフェスタ参加（あきる野東急前）

5/18

学校説明会（森上展安氏 教育講演会）開催

5/25

第13回運動会 開催

（日本テレビ ZIP! / フジテレビ めざましテレビ取材）

6/8

第1回オープンスクール

6/15

音楽と蛍のタペ 開催

6/25～28

6年生修学旅行（京都・奈良方面）

7/5

七夕集会

7/13

縦割りウォーキング（菅生付近）

7/24～29

学びの城の美術展

（立川：高島屋1F・3F）

7/29～8/29

夏休み学習教室（22講座開講）

8/26～29

サマースクール

（JAXA宇宙教室4回実施）

菅生高等学校中等部 校長メッセージ

下平 孝富校長

このたび、学園全体で各校種の情報をより深く共有するために広報紙の発刊が決まりました。発刊まことにおめでとうございます。

菅生学園は、幼稚園から高等学校まで多彩な校種を抱える総合学園です。幼児期から大人になるまでのほぼすべてのプロセスの教育を担う機能を備えている学園です。

教職員としてよく考えてみると他校種のことを積極的に知る機会というのは、なかなか作りづらいものです。他校種との人材交流の重要さは様々な場面で取りざたされるものの、実現はなかなか困難なのが現状です。その理由の主なものとは多忙である、もしくは興味がないということに尽きるのかもしれませんが、どうしても必要な情報は、自ら積極的に探すものですが、緊急でないものは後回しになりがちです。したがって、広報紙のようなものがあれば自然と配られた時には、少なくとも目を通してみるのではないかと思います。定期的に手元にやってくる情報は、無理なく情報共有をする機会の一つとして効果が期待できるのではないのでしょうか。この広報紙により、本学園の教職員が他校種への理解が深まり、より学園の一員として結束が固くなる一助になればと思います。

生徒諸君にとっての中等部は、いよいよ自分の進路の具体的な目標を探す旅の始まりの時期です。小学生の時は「児童」と呼ばれていましたが、中等部では「生徒」と呼ばれるようになります。その変化の意味について、いろいろと思い知る瞬間を経験していくのだと思います。また、我々教職員は呼称が変化する意味を一つずつ指導する必要があります。それらを中等部ではどのようにしているのか、他校種の教職員の方々にも広く理解していただく新しいツールができたということでしょうか。

中等部は、子どもに近い未成熟な者たちを、高等学校は大人に近い未成熟な若者を扱う違いがあると思います。中等部の取り組みをわかりやすく発信して他校種の教職員のみなさまと情報共有できる好機と期待しております。

活動報告

- | | |
|---|---------------------------|
| 4/11 交通安全教室 | 6/1 写生会② |
| 4/21 春一番合同相談会参加
(中高一貫校25校による共同開催：立川パレスホテル) | 6/6 芸術鑑賞教室 |
| 4/24 校外学習①(静岡三保・東海大学社会教育センター)
2泊3日 | 6/8 第1回学校説明会 |
| 校外学習③(羽田空港・東京グローバルゲートウェイ) | 6/15 第1回理科実験教室 |
| 4/25 校外学習②(横浜・鎌倉)1泊2日 | 6/22 第1回授業公開日 |
| 5/9 野草観察①(校舎周辺を散策・水辺の生き物も観察) | 7/11 指名補充開始 |
| 5/18 自然観察教室(広報イベント) | 7/15 第1回オープンスクール |
| 5/24 第1回塾対象説明会(学びの城) | 7/24 第2回理科実験教室 |
| | 学びの城の美術展
(立川：高島屋1F・3F) |

菅生高等学校 校長メッセージ



峰岸 英仁校長

創刊号に寄稿できることを大変光栄に存じております。そこで、高等学校運営の基礎となる考え方をあらためて、確認しておきたいと思います。

私学において建学の精神は、根幹であるとともに存在意義と言えます。よって私学はそれぞれ唯一無二の存在でなければならないのです。本校は島田久先生が、松前重義博士の「現代文明論」の講義に感銘し、その実践者になろうと決意したことにより創立されました。ですから、現代文明論で示された考え方のできる生徒を育てることが私たちの使命でありアイデンティティと言えます。

現代文明論においては「人間社会で起こってきたこと・起こることは、偶然の積み重ねではなく、長い目で見たとき、そこには一定の関連性や必然性そして法則がある。」というスタンスで事象を捉えます。そして高校現代文明論が目指していることは、「一人ひとりが調和のとれた考え方ができる賢さを身につけ、よりよい文明社会をつくろう」ということであり、私たちの活動はその実現のために行うこととなります。

令和の時代を迎え、IoTは拡大ビッグデータを処理するAIはその本領を発揮します。また、ロボット技術も飛躍的に発達し、社会も仕事も大きく変化すると言われています。AIにもロボットにも人間を凌駕するようなパフォーマンスが期待できます。しかし、AIもロボットも責任をとることができません。それができるのは人間だけです。責任をもった判断、信頼される判断をするためには、その拠り所となる自分自身のしっかりとした思想が求められます。また、18歳になると主権者として国の進路を決める責任を負うこととなります。民主国家においては、主権者が賢くなければ国は衰退します。日本の独立を守り、日本を発展させ、世界から尊敬される国にしていくためには、国や社会の将来の在り方を広い視野で考える姿勢を高校時代に身につけておく必要があります。このように考えると、まさに私たちの教育理念が必要とされる時代を迎えていると言えます。

活動報告

- | | |
|---|---|
| 5/7~11 校外学習 | 硬式野球部 |
| 6/5、6 芸術鑑賞教室 | 第71回 春季関東地区高等学校野球大会 準優勝 |
| 6/22 授業公開 | 2019年度 春季東京都高等学校野球大会 優勝 |
| 7/20 オープンスクール | 第29回WBSC U18 ベースボールワールドカップ
(韓国)一次候補 中村晃太郎 小山翔暉 |
| 関東大会出場 | インターハイ出場 |
| 男子バレー部、硬式野球部、
硬式テニス部団体、男子ダブルス(山内一輝・中西恭平) | 硬式テニス部 団体戦 シングルス(倉持・中西) |
| 男子シングルス
(五十公野巧・倉持英希・山内一輝・中西恭平) | 卓球部(男子)学校対抗戦 ダブルス(高橋・笠井、
前原・竹中) |
| 剣道部男女団体、陸上競技 400m走(中村 航) | シングルス(相川・高橋・笠井・前原) |
| 卓球部男女団体、男子ダブルス(前原椿樹・竹中流生) | 関東大会優勝 卓球部(男子) |
| 男子シングルス(高橋天馬・笠井智衆) | |

トピック

桜咲く春晴れの日、高校吹奏楽部の演奏に迎えられ、菅生学園初等学校に23名の児童が入学しました。この23名が大学を卒業して社会人になる2035年。日本は、世界はどのような社会になっているのでしょうか。

菅生学園の原点となる多摩学院幼稚園創立以来50年間、学園は創立者島田久先生の「無行：身を正し、整える。無想：無心になり、精神を集中する。無限：可能性を信じ、前進する」との開校訓を学園の心とし、数多くの子どもたちの可能性を引き出し、世に送り出してきました。

学園の子どもたちの幸せな未来に資する教育のため、教職員が一丸となり、あらためて学園の理念、ビジョンを共有し、力が尽くせるよう、コミュニケーションの場として、島田幸成理事長、和智紀朗常務理事のご指導のもと、学園広報紙がスタートしました。

「菅生学園報」は、多摩学院幼稚園宮野遥可先生、菅生学園初等学校村田隆一教頭先生、菅生高等学校中等部井上松雄先生、菅生高等学校会田信一先生が各園・校の編集を担当され、全体の編集を高橋真実が担当いたします。

手探りでスタートしたばかりの広報紙です。「こんなふうにしたら良いのでは?」「こんな内容も入れてほしい」等々、皆様のご意見をいただきながら、内容の充実を目指していきたくと思います。どうぞよろしく願いたします。

9～12月の予定

多摩学院幼稚園

- | | | |
|----------------|------------------|----------------------|
| <9月> | ・遠足(年少組・年中組) | ・横田メンデル幼稚園との交流会(年長組) |
| ・2学期始業式 | ・親子サイクリング遠足(年長組) | ・勤労感謝の集い |
| ・体育参観日 | ・秋の多摩学院フェスティバル | <12月> |
| ・お芋ほり(年少組・年中組) | <11月> | ・クリスマス会(お遊戯会) |
| <10月> | ・2020年度入園選考日 | ・お餅つき |
| ・衣替え | ・みかん狩り(年長組) | ・2学期終業式 |
| ・運動会 | | |
| ・マラソン始まり | | |

菅生学園初等学校

9/1	入試体験	11/1	第1回入学試験
9/11	TGG英語体験学習(5・6年)	11/16	第2回入学試験
9/28~29	菅生祭	12/14	マラソン大会
10/19	第2回オープンスクール	12/15	第3回入学試験
10/23	縦割りウォーキング	12/16	GTEC 実施

菅生高等学校中等部

9/3	修学旅行③ (北海道道東方面 釧路・中標津 ・知床・網走) 4泊5日	10/31	生徒会役員選挙
9/12	塾対象説明会	11/2	第3回学校説明会
9/14	夜の学校説明会	11/13	夢育て講座(様々な職業の方々、卒業生の指導 による職業体験)
9/25	スポーツ大会	11/18	郷土学習①(あきる野市五日市郷土博物館・ 弘沢の滝等を見学・森林村で昼食)
9/28~29	菅生祭	11/23	第1回入試体験教室
10/8	校内主張大会	12/7	第4回理科実験教室
10/13	開校記念式典	12/20	音楽祭
10/14	第2回オープンスクール	12/21	秋川駅周辺清掃
10/26	第3回理科実験教室	12/22	第2回入試体験教室

菅生高等学校

9/7	オープンスクール	10/1~6	パーカーカレッジ来校
9/12	塾対象説明会	11/2、16	学校説明会
9/15	合唱部定期演奏会	11/25~29	修学旅行
9/25	体育祭	12/1	学校説明会
9/28~29	菅生祭	12/6	吹奏楽部 定期演奏会

編集後記

『菅生学園報』記念すべき創刊号、いかがでしたでしょうか。皆さまからのご意見、ご感想いただければ幸いです。どうぞよろしく願いたします。



編集・発行
菅生学園 法人本部
2019年9月
ご意見・ご質問はこちらへ
編集担当：高橋 真実